

2017年8月21日（月）～8月26日（土）

2017年 TIDEPOOL サマーキャンプ富士山アタック

同行

今村直樹

松下かおる（保育士）

西岡みなみ（看護師）

篠原千奈（研修生・保育士）

佐野 Denis

佐野美香

富士山アタック 22日（火）～24日（木）

山岳ガイド 武田佐和子

フォトクリエイトカメラマン 鈴木

最初に

富士山アタックにあたり

今回ご協力いただきました、多くの方に感謝、御礼もうしあげます。ありがとうございます。また、送り出してくださった保護者の方、応援していただいた皆様にも感謝申し上げます。

「海拔0メートルからのスタート」

私たち TP のメンバーは海辺に住む人たちが多く、標高0メートル付近。そこから、日本で一番高い場所 3,776メートルの高さを目指すので、それはもう準備の段階もとても大切になります。大人でもバタバタと倒れる道中ですから、子供たちや同行する大人だってわかりません。

準備は初日からスタートしていました。

高度順応。初日のキャンプは本栖湖で1泊ですが、高度で言うと約1,000mすでに頂上を目指す準備でした。

2泊目は約2,400m、3泊目は約3,000mで頂上です。このように時間をかけて順応させていくことを大切にでも楽しみながら、身体が慣れていくことを目指しました。

「子供たちが自ら動く時間を求めて」

TPのキャンプでは、大人はあまり動かない、手を出さない。

これが、TPの基本的な考え方です。

子供たちのキャンプは買い出しからスタートします。
カレー班とピザ班の2班に分かれ、
大型スーパーで買い出しからやってもらいます。
予算を各チームで決めて、それぞれ、
肉の質を重視するのか、
量なのか、隠し味、スパイス、デザートの有無、
「有り」の場合は何にするか？などなど。
計算しながら予算内で買いだしていきます。



この買い出しも、子供たちはキャンプ全員の分を考えて購入し、料理までやってもらいます。経済的な感覚もそれぞれが違うので、子供たちの中で買い物中に必然的に話し合いが持たれます。

また、それぞれの役割も出てきます。カゴを持つ子、食材を集めに行く、計算してみる、指示を出すなど。役割が自然と割り振られてきます。
後でまた、料理の時間でこの買い出しの仕事の意味が出てきます。

「テント張りの大仕事」

住居をつくること

キャンプ設営に関しては、想像力と空間認識力、そしてチームワークが養われます。
まずはイメージを見せます。

テントの大きな袋を渡します。

さあ、張ってみよう！

様々なパーツを分けたりつないだり、

大きなテントを完成させていきます。

これも、一人では建てられないので、

仲間と（同じテントのメンバー）

協力が必要になりますよね。

全体を広げ、骨をどうやって入れるのか、

最初のイメージを頭に描きながら作業にあたります。

各チームでの声かけが響き渡ります。

まあ、男子はペグを打つのが大好き、トンカチと釘、みたいなものなので打ちたくてしょうがないわけですね。でも打った後に場所がまずかったり、と四苦八苦しながら作り終えるわけです。大人が考えている以上に子供のテント張りは時間がかかり、2時間近くかかります。

すでに 1630 ごろ…。でも子供たち中心で行うことを大切にするので、時間は二の次です。



「料理も任せる」

子供たちのカレー班、ピザ班ともに料理や火おこし（必要な時は）やってもらいますが、これまた時間がかかるわけですね。

準備に取り掛かり、「いただきます！」できるまでに約2時間

こだわりの料理を完成させるには時間がかかるものです。

野菜を切ったりすることも子供たち、煮込む時間を決めるのも子供たち、何回か「もういいんじゃない??」と私が聴いてしまった時もあるけど、それでも、「まだ！煮込みます！」って叱られる。



子供たちのそれぞれのこだわりや固定概念のない作り方はダイナミックです。隠し味なんかも、意表を突かれたものが入っていたりします。

この料理も何が起こってもだれも不満は言いませんよ～。火おこしが必要な時には火が付かないで、待ちぼうけなんてこともあるし、肉が！かた～～い！なんてことも、中には、量がすくな～～い！（涙）

なんてことも、でもそれも子供たちが考えた内容だし、子供たちのかかる時間、子供たちだってお腹すいているのは、それぞれで分かっているし、作る方だって頑張ってる。

だから、みんなで協力して食べられる食事は格別な想いが込められているのです。

毎回、それぞれの班が作る料理はとても丁寧で、子供たちの自信の一品になります。

まさに、「同じ釜の飯を食う」と言う事。

俺が切った玉ねぎ～～！ 俺が切った○△×※～～！みたいなね。

切り方や川のむきかた教えてもらったり、指少し切ってしまったたりね。

みんなのやろうとする姿勢が好きです。

「さあ、本題の富士山」

誠に天にも恵まれた…。本当に素晴らしい時間でした。心から子供たちをスngoイと思
い、尊敬しました。歩きながら何度も涙が出そうになりました。

今回の富士山アタック、自分自身の過去の経験から生まれた企画です。

以前は外国に行く機会が多くあり、どこに行っても必ずと言っていいほど、富士山の話になるのですね。

「OH! Japan! Mt Fuji!」みたいに…。自然と登ったことある？という話になるのですよ。

登ったことありません…。

いつも、聴かれる度に思っていたのですが、日本人なら一度くらいは登っておきたいなど。それが、子供の時に上ったことがあるとしたら、いつも見ている、眺めている美しい富士山のとっぺんに登れたとしたら。間違いなく強い印象の出来事として心に焼き付くだろうという事です。

日本人として、知識だけでなく、体験から富士山を説明できる！彼らがこれから世界に出た時に Mt Fuji の話が一つのテーマになるはず、だからとても大切な経験と新たなきっかけになります！



子供たちを尊敬します！

今回の登山では 12 名の子供たちが富士山に向かいました。頂上に行くことができたのは、11 名 8 合 5 尺の場所で 1 名が高山病のため下山の決断を自らして下りました。

1 年生から 6 年生まで 2 名ずつの 12 名

身長差もあり、1・2 年生にとっては大きな岩の壁を体全体で這い上がる状態です。

私たち大人がエベレストに挑むような例えでも大げさではないと感じました。

今回は富士山に登ることを目的にしましたが、富士山にただ登るのではなく、「祈り」も大切したいと思い、22 日の午前中には富士宮にある「浅間大社」へみんなで行きました。最近では、「祈る」ことをあまり意識しない時代と感じます。

誰かのために「祈り」を捧げたり、自分のため、家族のためにも「祈り」をささげるわけです。



デューラが描いた「祈る手」という作品がありますが、まさに想いを届ける、思い続けることが力に代わるのですね。

子供たち、大人全員で「無事登頂」と祈願し、下にある「富士山本宮浅間大社」で集合写真を、そしてまだ見ぬ、「富士山頂上浅間大社奥宮」を目指したのです。

初日は星観荘で 1 泊、眼下に広がる素晴らしい景色の中での BBQ 本当にありがとうございます。あんな素晴らしい場所で BBQなんて本当に贅沢！一生の宝物です！

子供たちみんなで書いた色紙も置いてきましたよ。
さあ、ここで金剛杖を手に入れて、いざ出発です！



「富士山は本当にわかりやすい達成感がある。」

富士山は登ります、ひたすら登ります、砂地、岩、砂利、とにかく登りが続きます。
その先には、日本一高い場所 3,776mの頂きが待っている。
そこをみんな目指していきます。

目的も一つ、そして少しずつではあるけれど、景色が変わり、頂上が近くなってくる。
尾根もない。「頂を目指す！」これが明らかなゴールです。

日本一高い場所を目指すために、歩む、わけです。「歩みを止めなければ必ず到達できる！」
頂上に行くと、今度はながーい、ながーい下りです。

登っただけでは終わらない、そこから折り返し、登れてうれしいけど、折り返しも気を抜かず歩むことを知ってもらいたい。



「自然と生まれるチームワーク」

今回の富士山アタックでは、大人も子供も一丸になりました。
大人だって、頭が痛くなる、気持ち悪くなる、子供たちも同じ、みんな同じ中でお互いを
ケアして、気を配り、無理な時は無理。真剣に、人として向き合います。
TPでは通常の事です、6年、5年が1年生の荷物を持って登る姿が途中から見る事が
できました。

人の荷物を持つことの大変さ、まして山の上ではなおさらのことですが、高学年が、変わる、
変わるに、交代して荷物を運んでくれました。それ以外でも、低学年の手を曳いたり、
支えてあげたり、盛り上げたり、本当に心強く、やさしさに満ち溢れた子供たちです。
また、それをみた低学年は、そんな素敵高学年にあこがれを持ち「あんなお兄ちゃんや
おねえちゃんになりたい！」と感じ、TPでは脈々と下の子供たちのケアをすることが日
常的に行われているのです。

山登りはとても有効なチームビルディングです。



「小学生の tough さを改めて実感 やはり彼らはエネルギーの塊です！」

よく、「小学生なのにできるのですか？」と TP の説明を聴きに来られたかたから、耳にする言葉です。が！子供たちの限界値のフィルタをかけてしまっているのは大人です。

子供は大人が思っている以上にできますよ。

それをやらせてあげるのか、「いやあ～無理でしょ～」ってやめてしまうのかでは雲泥の差が生じます。

もちろん、親ゆえに、手元に居てもらいたい、安全に越したことはない。と思うかもしれませんが、子供たちは親が先に逝ったとしても生き続け、判断していくのです。

1人の人生を歩んでいるのです。だからこそ、自立心、自尊心（プライド）を育む必要もあるのです。

愛に包まれながら、「愛」の意味はとても深いものだと感じます。

登りながら感じたことは、「本当に元気!!!」なんで??って思うぐらいに、よくしゃべる、動く！



本当に 3,000m 地点なのだろうかと思うぐらいでした。

なかでも、元気な子は大人が疲れて休憩してる中でも、元気に挨拶！そして外国人にも「Hello!」「How are you?」

超元気！彼らの無尽なエネルギーを目の当たりにしました。

富士山から無事下山した翌日も、なんと朝 5 時から起床し、活動が開始されていました。

正直、下山した翌日は子供たちも 7 時ぐらいまで「ねてるかなあ～？」なんて考えていたのですが、大きく期待とはずれ、有り余るエネルギー消費に朝から、ながーいお散歩という現実を知らされました。(笑) もう少し寝てると思ったのに…。

「さすが世界遺産！」

世界中から富士山に登りに来ます！

国際色豊かな山でした。

コミュニケーションスキルがここで爆発しましたね！！

なぜか、自然の中にいると知らない人でもつい話をしてしまう…。そんな経験ありますよね。

まして、僕たち子供 12 名で目立つ！

大変よく声をかけられました。「すごいね～!」「がんばって!」「えらいね～!」

子供たちもそれに答えるように「ありがとうございます!」「がんばりましょう!」など自然と会話がそこから生まれる場面もありました。

人と生で接すること、お話がもりあがると、飽なんかもゲットする子まで現れました。たまにいますよね、おばちゃんと話しているうちに仲良くなって、「食べる？」なんてこと。一緒に気が付くと、食べて、話して、笑ってるなんてことね。それをまさに、できる子がいると、それに触発されて、(別にお菓子がもくてきではないよ) 周りの子供も積極的に声をかける場面が良くみられました。

外国の人にも声をかけ、かけられ、国際色豊かな富士山に改めて感謝し、子供たちのコミュニケーション能力の高さにもただただ、「すごいね～～」って…。感心しておりました。



「8合5尺の決断」

子供たち 12名全員が頂上に到達はできませんでした。肉体的に…。

でも、心はみんな頂上まで行ったように感じました。

1人が下りる決断をしたとき、に約束したもんね。

「おまえの分まで登るよ！」って…。

ちょうど8合目でも一度子供たちミーティングを行いました。

調子の悪い子がいる、みんなどうするか…。

という事。

沈黙がしばらく…。寒い、疲れた、頭痛い…環境としてはキツイ環境下であることはわかっていたんですが、あえて子供たちに話し合いをさせました。

「のぼりたい！頂上にいきたい！」(こうやって意思を伝えることも大切な能力)

と、そのあとですが、

「でもさ、調子悪いやつがいるんだぜ。みんなで行けるかどうかわからないよ。」

何名か考えていた様子でしたが、

調子の悪かった本人から

「もう少し頑張ってみる…」と。

そこから、約45分 本心に頑張った。



無言で寒さから身を守り、隊の列についていく。

しかし、

時刻は朝8時17分3日目の朝のスタートから約2時間30分

退くことを決断した。

休みたいと本人からの希望もあり、休憩その間に少しでも回復すれば…と希望をもったが、体調の悪さを自覚して、「下ります」と 頂上まで600m…。

様々な気持ちがよぎったでしょう。

「行きたい!」「みんなの足を引っ張ってしまう。」「つらい」「気持ちわるい」「やだ」「あきらめたくない」

TPではいつも自然の中で引くことの勇気を大切にしてもらいたいと子供たちにも言っています。

そして、その決断に「敬意」を持つことを忘れてはいけないという事。

その決断に対して、みんなが「敬意」を持ち、と同時に、みんなが「悔しさ」を感じたのは言うまでもない。(全員が同じ気持ちになったよ。)

彼のほほを涙がつたって落ちた。



僕は社会も人も自然現象の一つと考えている。

だから、そのなかで、退くことの勇気をもってもらいたい。

そして、無理と努力の違いを知ってもらいたい。

また、他人に助けを求める力も持ってもらいたい。

なんでも、「自分ひとりでやろう!」なんて思わないでいいよ。

仲間がいるしね。

できないことは、誰か手伝って～～!って、いえばいい。



「頂上まで 400m…」

およそ 1 時間 30 分… さすがに子供たちも疲れが見えてきた。高地の影響も出てきている様子。

日常の中で 400m を 1 時間 30 分ってことはまずない。

本当に、一歩ずつ、一歩ずつ…。乾いた、赤い地表と岩を確かめ、足の裏で感じながら大切に登っていく。

たたあーっつと登る様なことは 3,376m ではできない。

子供たちの表情も真剣さがましている。感じ取っているな。環境の違いを。

400m の間で休みは 1 回、あとは頂上をめざす。

頂上の鳥居が見れたのは、10 時 11 分、

その後 5 分後子供たちは

自分の足で頂上へ到達した。

大きな喜びを、疲れた片手の平に込めながら、

ハイタッチを交わしていく。

子供たちは目が大きく開き、輝かせ、

疲れながらも興奮気味な様子。



「やった～～!」「ついた!」「やっほ～～!」「まま～～!」思い思い、日本一高い場所から叫

び、喜びを表現していました。

大人も喜びに満ち溢れ、富士山山頂で大きなエネルギーを一番たくさん放っていたグループだった！

「頂上にてカニ？」

最初に子供が取り出したのは、なんと「かにパン」(笑)補助食として、下から持ってきたものですが、なぜ取り出したかという、めっちゃパツン、パツンなんです。

破裂する～～！ってくらいね。



まさに、自然科学です。

気圧の変化で膨らむことを身をもって
実験成功！

カニもいいけど、お宮参りした時の石塔！ありました！

「富士山頂上浅間大社奥宮」

「あつた～～！」とみんな！あつたのですよ～！

登る前にみたよね！！

ここが、お参りに行った神社の一番奥のお参りする場所！

神社に到着して、みんなで無事登頂の報告を神様にしました。

手を再び合わせ、下の神社とつながった瞬間でもありました。

頂上の神社では、金剛杖に刻印をしてくれる、みんなで助け合いながら使ってきた杖に刻印をしてもらう瞬間だ。

子供たちはみんなで「お願いします！」

8合目までは焼き印だった、頂上では朱印？？？

子供たちはなんで？？？

と、宮司さんが教えてくれましたね。

「この神社は富士山の噴火を鎮めている神様だよ。

だから頂上で火を使ってはいけない、

もし火を使えばまた富士山を噴火させてしまう

かもしれないからね。」

頂上でないともらえない朱印！

子供たちの誇らしげな様子が印象的でした。

それ以外には、頂上でのトイレがなんと 300 円！これには子供たちも驚き！

カップヌードル 700 円！

ま、でもさ、この高さで何かが食べれると考えたらそれだけでもすごいことだよ～。



「下山そして再会」

登り切ったら、下山です。

ひたすら下りが続きます。これでもか！ってくらい続きます。

でも、今回の下山は途中で下りることを決断した子と再会する喜びがありました。

頂上から下りてくる途中に、私たちが宿泊した 8 合目にある「下江戸屋」さんが小さく見えます。

つづら折りの下り道を下り、あとつづらを 4 つぐらい下りるところで、下に先に下山した、松下とその子が待って手を振っているではないかー！

なんとも、感動！

したからも、TP の隊が見えたのでしょうか。

上から大きな声で、彼の名を叫び、

大きく手を振る子供たち、

「おまえの分まで登ってきたぞ～～！」

涙出るわ！ほんと！

8 合目から再び隊に合流して、一緒に下山を開始。

具合も良くなり、食欲も出てきた彼もいっしょにお話ししながら下山できたよね。

素晴らしい仲間だよね！

下山は 5 時間かかりました。



「英雄の顔」

5 合目無事到着、疲れ果てました！

みんな本当にいい顔してた！かっこいいよ！

誰よりも、輝いていました！やり遂げた感たっぷりの！自信に満ち溢れたみんなの顔や雰囲気はすごかったな。

中国の親子が子供に一生懸命説明してたよね～。（僕たちの疲れ切ったグループを見て）

きっと、こんな感じだと思う…。

「みてみなさい！この子たちは頂上まで行ってきたスゴイ子供たちだよ！な！だからあなたも見習いなさい！」的な…。たぶんね。たぶん。

相当な私の想像です。中国のお父さん子供に一生懸命話してたな～。



「日常の豊かさ、便利さ」

5合目までかえってくると、とても便利な社会がありました。

トイレは無料(笑)、水はたくさん出るしね。

歩かずにバスに乗れば冷房が効いてるし、気持ちがいいしね～。(帰りのバスではみんな爆睡でした。元気に爆裂トークしている子もいたけどね。)

キャンプ場でさえとても便利な場所に感じます。

蛇口をひねると水が出る、普通なことがとてもありがたいことに感じるよね。

暖かいシャワーもそうだしね。

感謝だよ。感謝。

「キャンプを終えて」

と、つらつらと書いてみましたが、やはり子供たちはすごいです。すごかった！

子供たちの可能性は無限大です！

「無理」とか「できない」という言葉なんて知らなくていいのではないかと思います。

そして、大人も子供も同じ目線でも心から楽しむことが大切なんだと思います。大人だから、高山病にならないようにとか、考えてしまいそうだけど、不可抗力。

大人だって、わからないこと、できないこと、かっこ悪いこと、たくさんあるんだよね。

それをお互いに出し合って、子供であろうが大人であろうがケアしていくこと。それって人として大切なことだよ。

それと、25日の木曜日の予定は、なーんにも入れずに過ごそうと決めた日です。

子供たちが何をやりたいか聞きながら、決めたのですが、湖に入りたーい！

OK OK! じゃ、みんなで湖に！すぐにみんなあがるのかなあ～とか思いきや、軽く2時間水の中…。さすがTPキッズ。

今回の富士山アタックは大人も、子供もみんなでチャレンジでした。

みんながいい顔してました。

たくさんドラマをありがとう！

最高の仲間たちです！



「そのほか」

ほかにも今回のキャンプの中で気がついたことをあげてみると

たくさんあるのですが…。

- ・大人も舌を巻くようなエネルギーにあふれている (あらためて再認識)
- ・子供たちは大人とのスキンシップ (体遊び) を求めている、とても大切である
- ・生のコミュニケーションを求めている

- ・ 広大なフィールドは子供たちに重要な自由と制御（抑制）を与える。
- ・ ある程度のストレスは次の成長へ進むためには不可欠である。
- ・ 野性的なフィールドにでると大人も子供も本来の自分が出てくる、強さ、弱さ。すべて。
- ・ 子供たちには何かをやらせようとするのではなく、子供たち自らが何かをするのをこちらは待つ。
- ・ 子供たちは遊びの天才である。（ちょっとしたきっかけが必要な時もある。）
- ・ キャンプ中は子供たちの遊びを遮らない。
- ・ 子供たちの違う一面を見ることができました。（山を先頭について黙々と登ったり、弱音を全然吐かなかったり、きつい状況でもムードメーカーとして励ましてくれたり、子供たちの意外な一面も見ることができました。）
- ・ 寂しさの向こうには自信が生まれる
- ・ 何事を選択も判断・決断を行っている、故にその最終選択に敬意を示す

今回ここに書ききれないほどの、ドラマと感動がたくさんありました。

私にもっと文才があれば良かったのですが…

今回の富士山アタックも皆さんのご協力あってこそ、と心底感じました。

ご協力いただきました、葉山スタッフ、キャンプスタッフ、ガイドの武田さん、カメラマンの鈴木さん、ほかお宿の方
みなさん ありがとうございます。

以上

今村直樹